二〇一三年一〇月一五日（能勢吉川界隈 参加者一一名）

秋深し岨みち果つる捨て棚田　雅流
猪罠の傾ぎしままに冬ざるる　〃
豊の秋神の杜より笛太鼓　〃
爽やかや湯立ての巫女の白衣裳　〃
ふるまひの神酒一献新走　よし子
秋高し湯立神事の湯煙に　〃
石仏の土台となりて蔦紅葉　〃
遊女宿てふ廃屋の柿たわわ　公子
鵙高音養護ホームの裏山に　〃
里山にひびく太鼓や秋祭　〃
丁目石半分沈む落葉嵩　小袖
みなし栗けどばしもして山路ゆく　〃
爽やかに鈴振る巫女は幼な顔　〃
天辺の棚田の跡は芒原　ひかり
さはやかや神楽の舞の鈴の音　〃
秋草の名を教はりつ吟行す　〃
隠沼いづくともなく秋の蝶　うつぎ
村まつり主役は稚児の巫女袴　〃
おごそかや湯立の釜に今年米　有香
行厨の楽し野菊の咲く丘に　〃
北限の椎の杜とや村祭り　ともえ
もみを焼く煙の匂ふ里山路　えつ子
立ちのぼる谷戸の煙に秋惜しむ　よう子

吟行句会みのる選

二〇一三年一〇月一五日（能勢吉川界隈 参加者一一名）